

平成 28 年度

**B 日程 入学試験**

**国 語**

**注 意**

1. 試験開始の合図があるまで，この冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は 45 分です。
3. 問題は，1 ページから 13 ページまで印刷してあります。試験が始まったら最初に確認し，足りないページがあったら申し出なさい。
4. 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。
5. 解答用紙には，受験番号・氏名を記入しなさい。
6. 試験が終わった後，問題冊子・解答用紙とも回収します。



① 次の1〜8の——線をつけたカタカナを漢字で、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

1 駅員にイシツ物を探してもらう。

2 役所にゼンシヨを求める。

3 技術を後世にデンジュする。

4 犯人をケンキヨする。

5 お年寄りをウヤマう。

6 山腹でひと休みする。

7 カステラの元祖のお店。

8 正味三十分走った。

② 次の1〜4のことばの中で、その成り立ちが他とは異なるものをそれぞれ一つずつ選び、記号で書きなさい。

1 ア きれい      イ うまい      ウ ながい      エ やすい      オ おそい

2 ア 違い      イ 囲い      ウ 装い      エ 寒い      オ 救い

3 ア きねん      イ やくそく      ウ あかし      エ みらい      オ きたい

4 ア ゆり      イ きく      ウ すみれ      エ はぎ      オ はす

3 次の詩を読み、後の問いに答えなさい。

巢立ち

松永伍一  
まつながごいち

巢立ち！

その意味を知っている鳥は

青い空にむかつて

力いっぱい

よろこびに鳴く

あれは

誰がきいても

① よろこびの声だ

透明で

② じんと人間の胸に

突き刺さるではないか

ガラスの矢のように

歩き出すとき

人は

未来をおもう

つまずくことを

はじめから予想などしない

心が

③ のように

張りみちているから

へばりついて

泣きべそをかくなんて

おもってもみない

だから歩けるのだ

人の一生は旅だという

たしかに

そんな気がして

このたとえが

好きになる

雲を斜めにうけ

かんかん照りのなかで

水もない峠の岩に腰かけ

④ 「花ばかりじゃなく

とげのある石も踏まねば……」

ひとりつぶやく

それが

旅

風が吹き

陽がかがやいているのに

入口は「⑤ 狭き門」

苦い涙も

落ちたりして

それで

背骨がしつかりする

それで

⑥ 心も炎となる

「生きてきてよかった」

ひとりで

そんなつぶやきが出る

きみらは

きみだけの

⑦ ひかびか光る人生を

その手でつかめるのだ

二つとない

きみだけの

重い歴史を

きずいていけるのだから

⑧ 固有名詞のついた人生よ 歴史よ

おめでとう

『松永伍一少年詩集 油屋のジョン』

理論社 による

注1 狭き門 Ⅱ 入ることが難しい門

注2 固有名詞 Ⅱ ものの名前のうち、

人名や地名など、そのものだけにつけ

られた名前を表すことば

1 — 線①「透明で／じんと人間の胸に／突き刺さるではないか／ガラスの矢のように」とありますが、鳥の鳴き声が「人間の胸に突き刺さる」ように感じられるのはなぜですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 生きているうちにくじけて汚れてしまう人間の心を鳥がするどく見ぬき、責めているようだから  
イ 勇気を持って飛び立つことのすばらしさを教えてくれる鳥の声に、心がはっと奮い立たされるから  
ウ 人間がどんなに望んでも手に入れることのできないものを知っている鳥がねたましいから

エ 鳥が巣立っていく日が来たことに感激し、自分のことのようによろこびをかみしめているから  
オ 希望はかたががなく、目に見えないものであるということを鳥が教えてくれたから

2 ② にあてはまることばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア ゴムまり                      イ 太陽                      ウ ガラス                      エ 子いぬ                      オ しゃぼんだま

3 — 線③「花ばかりじゃない／とげのある石も踏まねば……」とありますが、ここから作者のどのような思いが読みとれますか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 自分より強いものばかりでなく、弱いものにも従わなければならないという思い

イ 世の中には美しいものだけでなく、醜いものもあるということを認めるべきだという思い

ウ 人生には心いやされる時ばかりではなく、乗りこえなければならぬ苦しい時もあるのだという思い

エ 遠くからながめているだけではなく、実際にやってみなければわからないという思い

オ 好意的な相手ばかりではなく、敵対する相手とも仲良くしなければならぬという思い

4 — 線④「心も炎となる」とありますが、それはどのような様子を表していますか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 恥ずかしさのあまり赤面する様子                      イ 怒りがこみ上げてくる様子                      ウ 気分が落ち着かずゆれ動く様子

エ 心が温まって期待でいっぱいになる様子                      オ 意欲がわき立ち前向きになる様子

5 — 線⑤「ぴかぴか光る人生」とはどのような人生のことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 立派な人物として歴史上に名前を残すことのできる人生                      イ 光り輝くような成功をつかむことで意味が生まれる人生

ウ かけがえのない新たな歴史の誕生を祝福するような人生                      エ 強い志を持って生き、自分らしさを発揮することのできる人生

オ 充実したひとり旅を終えたということに満足できる人生

④ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

そのとき、外の茂みで音がした。

「なんだろう？」

二人はすぐにドアの外へ出た。「だれかいるの？」

また、ガサガサと音がした。

「出てきなさい！」

すると、茂みの間からヨンの顔が現れた。

ネッリは、かっとなった。「そこでなにしているの？ あたしたちの跡をつけてきたのね？ ここは、あたしたちの場所よ。あんたは、だめ！」

「そこでなにしているの？」ヨンは、ネッリの言うことなどまったく気にせずに聞き返した。「遊んでるなら、ぼくも入れてよ」

ネッリはヨンを追い返そうとしたが、はたと思い直した。ここで仲間はずれにしたら、ヨンはアルマおばさんに告げ口するにきまっている。だったら、どうせ見つかってしまったんだもの、ヨンを引き止めておいたほうがいい。

「あたしたち、ままごとしているのよ」ネッリは言った。「あんたがパパになって」

① ヨンは真顔でうなずいた。「パパはなにをするの？」

「海で魚を獲るのよ。わかっているでしょ？ パパというのは、船で漁に出るものだって。ほら、そこにボートがあるわ。それで魚を獲ってきて！」

とたんにソーニヤがおびえるような顔で、ネッリを振り返った。あんな古いボートで海に出られるわけがない、それにヨンはまだ水泳を習っていない年齢よ、と言うように。

「きてー！」ネッリは言った。「こっちよ」

三人は茂みの間の道を、一列に並んで（注1）栈橋へおりていった。ネッリが先頭、つづいてヨン、そしてソーニヤの順だ。

栈橋は歩いてもだいじょうぶだった。ネッリとソーニヤは前に試していた。だが、ボートには足をかけたこともない。

「さあ、乗って」ネッリが言った。

ヨンは、言われるままにボートに乗りこんだ。ボートは浮いている。ヨンの体は軽いのだ。（注2）オールがひとつしかないよ」「オール一本で海底をつけばいいのよ。浅いんだから」

② ヨンは、なにか考えているようだった。「ママに言われてた。一人でボートに乗っちゃいけないって」

「気にすることないわ。ただのままごとなんだから。いい？ ロープをはずすわよ」ネッリは腐りかけたロープを杭からほどいた。

「ネッリ……」ソーニヤがつぶやいた。「まさか本当に」③

「水は浅いんだし、ヨンはどこにも行きっこないわ」ネッリはボートの（注3）軸にロープの端を投げた。「行つてらっしゃい！夕食にする魚を頼んだわよ！」

④ ネッリは、さつさと歩いて小屋にもどった。ソーニヤもあとからついてきた。

二人は皿のつものの陶器のかけらをテーブルに並べると、かまどに火を起こすまねをした。

遠くで雷の鈍い音がする。

ネッリは窓に近づき、外をのぞいた。まっ黒な雲が（注4）本土の方から近づいてきていた。

「嵐がきそうー」ネッリは言った。

数分後、雨が降りだした。どしゃぶりの雨だ。

ネッリとソーニャは、屋根と呼ぶにはあまりに粗末な漁師小屋の崩れかけた屋根の下で雨をしのいだ。雨が壊れた屋根瓦に激しくあたる。大きな雨粒が二人の腕や脚にもあたった。

「キャツ、冷たい！」ソーニャが声をあげた。

ネッリは、はつとした。ヨン。ヨンのことを忘れていた。雨の中、一人でボートに乗っているヨン！

「ヨン！」ネッリは叫んだ。「ヨンを連れてこないと！」

二人は濡れた草につまずきそうになりながら、降りしきる雨の中を棧橋へ走った。服が体に、髪が顔にはりつく。

「ヨン！ ヨン！」

ヨンを乗せたボートは岸を離れ、入江の外へ向かって流されていた。ヨンは舳に立って一本しかないオールで海底をつこうとしているが、うまくいかないようだ。

「ネッリ！」ヨンが叫んだ。「オールが届かない！」

横なぐりの風に、雨が痛いほど顔にあたる。

「待ってて、ヨン！ いま行く！」突然、ネッリは入江に沿って走りだした。岩から岩へ飛び移り、大きな岩をよじ登った。足を滑らせてころんでも、すぐにまた立ちあがった。

だが、そこまでだった。その先は海だ。もう進めない。

ヨンのボートはネッリから十メートル、いや、十五メートル先の水の上にあつた。

「ロープを投げて！」ネッリは叫んだ。ヨンはロープの端をつかむと、ネッリの方へ投げてよこしたが届かず、海に落ちた。

「もう一度！」

ヨンは体を震わせ泣きながら、またロープを投げた。もう一度。でも、いくらやっても届かなかった。

「ネッリ……」ヨンはしゃくりあげた。「ボートが沈んでいく……」

ネッリにも見えた。ボートがだんだんと海に沈みこんでいくのが。船底からも(注5)舷からも海水が浸みこんでいるのだ。

「いま行く！」ネッリは叫んだとたん、海に飛びこんだ。服を着たまま泳ぐのは、むずかしい。体にまとわりつく。靴は鉛のように重い。

だが、ボートまではそう遠くなかった。ネッリは、どうにか舷に手をかけることができた。「あたし、ボートを引いては泳げない。ヨン、飛びこんで。いっしょに泳ぐのよ」

「いやだ！」(注5)ヨンは抵抗した。「いやだ、いやだ！」

「だめ、そうしなきゃ！ 溺れたいの？」

ヨンは、もともとシャツのボタンをはずしはじめた。

「服は着たまま！ 早く！」

ヨンが舷に腰をかけると、ボートはさらに沈みこんだ。ヨンの体は滑るようにボートから離れた。

一瞬だった。

ネッリはあわててヨンを支えようとしたが間に合わず、ヨンの頭は海の中に潜った。

ネッリは必死にヨンを引きあげた。ヨンは海水を吐き、泣き叫んだ。

「静かに！ じっとして浮いていて！ あたしがひっぱっていくから」

ネッリとソーニャは、人命救助の訓練を受けていた。とはい

え、溺れたふりをしている泳ぎの上手な友だちをひっぱって泳ぐのと、パニックになって暴れる八歳児<sup>はっさいじ</sup>をひっぱって泳ぐのでは、わけが違う<sup>ちが</sup>う。

「静かにして。そうしないと、あたしたち、二人とも溺れる！」  
ヨンはおとなしくなった。

ネッリは仰向け<sup>あおむ</sup>になり、ヨンの重たい体を支えながら泳ぎ続けた。

飛びこんだ岩までは何かきもする必要はなかったが、岩はつるつるで足が滑る。どうやっても、岩の上にヨンを引きあげられそうになかった。

ネッリは仕方なく、ヨンを引いて入江の奥<sup>おく</sup>の浅瀬<sup>あさせ</sup>までさらに泳いでいくことにした。足が海底に届いたら、あとは歩いていけばいい。

ネッリは足で力いっぱい岩を蹴<sup>け</sup>ると、ふたたび泳ぎだした。ときどき足先で海底<sup>さく</sup>を探る。まだだ。まだ足は届かない。

注1 栈橋 Ⅱ 船を横づけできるように造られた船乗り場

注2 オール Ⅱ 船を進めるのに使う、先が平たい棒

注3 舳 Ⅱ 船の先頭部分

注4 本土 Ⅱ この物語の舞台である小島から見た、大陸部分を指す

注5 舷 Ⅱ 船のふちのところ

「ネッリ！」岸からソーニヤが叫んだ。「ネッリ、手を貸そうか？」

そのとき、ネッリの片足が砂にふれた。もう片方の足も。ネッリはあごを海面の上に出して立っていた。

「だいじょうぶ。一人で平気」ネッリはソーニヤに返事をすると、後ろ向きにヨンを引きながら歩きだした。すぐにヨンも足が届いた。

体中から水をたらしながら、二人は栈橋のもとで岸にあがった。

ボートはいま、舳の一部がかるうじて見えているだけだ。

「沈んでいく……」ヨンがつぶやいた。

「うん……」ネッリは顔から水滴<sup>すいてき</sup>をしたたらせながら、石の上に腰をおろした。そしてゆっくりと⑦自分がなにをしたのかを振り返った。

(アニカ・トール／菱木 晃子<sup>あきらこ</sup>訳『大海の光』新宿書房<sup>しんじゅくしょぼう</sup>による)



1 — 線①「ヨンは真顔でうなずいた。」とありますが、それはなぜですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア ネットリから仲間に入ることを許され、しつかりやろうと思ったから  
イ 年上のネットリに声をかけられるいつも緊張してしまうから

ウ ババになれなんて大変なことを押しつけられて恐ろしくなったから

エ ババという重大な役割をまかされ、身の引き締まる思いがしたから

オ ネットリの仲間に入れてもらえた喜びで、頭が一杯になっていたから

2 — 線②「ヨンは、なにか考えているようだった。」とありますが、このときのヨンはどういう状態ですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア オールが一本しかないことがとても心配で、ほかの事は頭に入らない状態

イ オールが一本しかないというが、もう一本はどこにあるのだろうと考えている状態

ウ ママとの大事な約束を破りたくなくて、家に帰る理由を考えている状態

エ ネットリと遊びたい気持ちはあるが、ボートに乗ることを迷っている状態

オ オールのことはとても気になるが、ネットリの言うことには逆らえない状態

3 — 線③「……」とありますが、この部分でソーニャが思い、口に出さなかったことばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア ヨンを仲間に入れるつもりなの

イ オール一本だけでボートを出すの

ウ ヨンだけをあんな古いボートに乗せるの

エ ヨンがボートを動かせると思っているの

オ ヨンのママには何て言うつもりなの

4 — 線④「ネッリは、さつさと歩いて小屋にもどった。」とありますが、このときのネッリの気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア ヨンがもどってくるまでに食事の準備をしなければとあせっている。

イ じゃま者のヨンを追い払うことができたので清々している。

ウ 今日はどんな料理にしようかと、一生懸命考えている。

エ ヨンに対してまた別の指示が必要かどうか心配している。

オ どうしたらアルマおばさんに告げ口されないか思案している。

5 — 線⑤「ヨンは抵抗した。」とありますが、その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア ネッリにだまされたという思いが強いから

イ ネッリがきらいで言うことを聞きたくないから

ウ ネッリを信用できなくていつしよには泳げないから

エ 自分が泳げなくてパニックになっているから

オ うまく泳げない自分を知られるのが恥ずかしいから

6 ⑥ にあてはまることばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア さつさと      イ よろよろと      ウ よぼよぼと      エ とぼとぼと      オ しおしおと

7 — 線⑦「自分がなにをしたのかを振り返った」とありますが、このときのネッリの気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア ヨンの命を救えたのは自分の頑張りであるため、本当にすばらしいと感じている。

イ 突然の雨が降らなければこんなことにはならなかったのにと、くやしがつている。

ウ ボートを沈め、周りの人たちに迷惑をかけてしまったて申し訳ないと思っている。

エ ボートが沈んでしまって、ままごと遊びが続けられないのは残念だと思っている。

オ ヨンを救えたのは良かったが、命が失われかねなかったと恐れを感じている。

このページに問題はありません。

⑤ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

日本にやってきたツバメが行う最初の仕事は、一緒に子育てをするためのパートナーを探すことです。パートナーを探すために、多くのツバメは昨年巣を作った場所にまず戻ってくるといわれています。パートナーを一から探すのは大変であるため、昨年のつがい相手がいれば、まずはその相手とつがおう、というわけです。冬の間、パートナー同士がどのように暮らしているかはわかりませんが、一緒に暮らしていないのではないかとわれています。そこで、まずはお互いに無事に日本で会えるかどうか確かめるわけです。

【 ① 】

この際に見せる行動で、面白い傾向がわかっています。新潟で行われた研究では、オスとメスで待っている時間が違うということです。オスは到着してメスがいなかった場合にしばらく待つのですが、メスは到着したときにオスがいなければ、オスを待たずに別のオスを探しに行ってしまうというものです。いわば、ツバメの「離婚」の話になるのですが、メスを待たせるオスは離婚をつきつけられる確率が高くなってしまいますのです。

前年のパートナーとつがわない例も多くあります。前年のパートナーが死んでしまったり、到着が遅くなってしまうたりすれば、別のパートナーを探さなくてはなりません。また、前年とは別の場所でパートナーを探す個体や、その年から初めて繁殖に参加する若い個体は一からパートナーを探さなくてはいけません。それどころか、前年のパートナーがそばにいたとしても、周りにもつとよいパートナーがいればそちらに乗り換えることだってあるのです。

③ A

、ツバメは誰とでもつがいを形成する可能性があるのです。

周りにいる多くの個体の中からのようにパートナーを決めるのでしょうか。多くの動物の場合、パートナーを選ぶ決定権はメスにあります。これはツバメも同様です。オスはメスに自分をアピールし、それがメスに受け入れられるとつがいが成立することになります。

⑤ A

は全体的に、

⑤ B

よりもほんの少しだけ早く街にやってくるようです。そして、子育てをするのに都合の良い縄張り

を探します。良い場所というのは、敵が襲ってきにくく、餌が豊富に取れる場所でしょう。前年の自分の記憶を利用したり、街中にある古巣を目印にしたりしながら縄張りを決めます。縄張りが決まると、縄張りのそばの目立つところにとまって「チュルリチュルリ、ジャー」とさえずりを始めて

⑤ C

を呼ぶのです。

⑤ D

はいくつかの縄張りを行ったり来たりしながら、

⑤ E

を品定めし、パートナーを決定するのです。

メスを選ぶ権利があるといいましたが、なぜメスを選ぶ権利があり、どのようなオスがメスに「モテる」のでしょうか。つがいになる目的は子供を産んで一緒に育てることです。動物は自分たちの子孫を残すためにさまざまな工夫くふうをしながら生活しているのですが、子孫を残すためには、元気な子供が生まれてくるのが一番ですよね。このため、多くの動物で⑥個体がパートナーとして好まれるのです。これはオスにもメスにもいえることです。オスメスに違いがあるとすると、どれだけの子供を残すことができるかという部分になります。

動物のメスは卵たまごや子供を産まなくてはならず、その後の長い子育てもメスが中心となって行います。このため、ある年に産める子供の数は非常に限られているため、1回の子育てをする際に、オスに比べて慎重しんちょうにパートナーを選ぶ必要があるのです。立派なオスとの間に子供を残すことができれば、子供もその血を受け継つぎ、立派に育つはずです。子供が死んでしまう可能性が減らせることになると、残せる子孫の数が増えることになるのです。

③B、オスはメスに比べて子育てにかけるエネルギーは非常に少なくなります。ほ乳類のオスはメスのように乳を与あたえる必要はありませんし、鳥のオスはメスのように大きな卵を産む必要がありません。また、メスは1回に1つのオスとの間にしか子供を作れませんが、オスは同時に複数のメスとの間に子供を作ることができるのです。こうした場合にオスにとってはじつくりパートナーのメスを選ぶよりも、たくさんメスを探し回った方が残せる子供の数が増えることにつながります。

⑦《このように、オスとメスでパートナーの選び方が違っていているため、メスがオスを選ぶようになり、オスはメスにアピールして受け入れられようとする図式が成り立つのです。メスがいけないことにはオスは繁殖をすることができませんので、ときにはオス同士でメスの取り合いになることもあるのです。ツバメでも、メスをめぐってときには取っ組み合いのケンカになります。僕たちの調査地のようなツバメが1ヵ所にたくさんいる場所ではそのケンカも頻繁ひんぱんに起こります。空を自由に飛び回れるツバメが、メスをめぐる決闘けつとうを始め、互いに相手を押おさえつけようと、地面を転がっている姿を観察したこともあります。》

（北村 亘『ツバメの謎』誠文堂新光社 による）

1 【①】に入る段落は、次の三文で構成されています。文章がつながるようにふさわしい順に並べかえて、記号で書きなさい。

ア このため、日本にやってくるタイミン<sup>グ</sup>も個体によってばらばらになっており、同じ巣で繁殖をしたつがいであっても、巣に戻ってくるタイミン<sup>グ</sup>はオスとメスで少しずつれてしまうことがあります。

イ 渡り<sup>わた</sup>をする時期は春なのですが、すべてのツバメがまったく同じ日に日本にやってくることはありません。

ウ 渡りの準備ができたものから次々と飛び立ち、日本にやってくるのです。

2 — 線②「面白い傾向」とありますが、具体的にどのような傾向ですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 冬の間、オスとメスがつがい<sup>で</sup>過ごさないという傾向

イ オスとメスではパートナーができるまでの時間が異なる傾向

ウ ツバメはメスよりオスの離婚<sup>りこんりつ</sup>率が高くなる傾向

エ オスの方がメスよりパートナーを待つ時間が長い傾向

オ 他の地域と新潟のツバメとでは、パートナーの待ち時間が異なる傾向

3 ③A、③B にあてはまることばとしてふさわしいものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で書きなさい。ただし、同じ記号は二度使

えません。

ア かし                    イ つまり                    ウ ただし                    エ ところで                    オ 一方

4 — 線④「決定権はメスにあります」とありますが、それはなぜですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア メスは子孫を残すチャンスが少なく、1回で確実に子孫を残せる確率の大きい相手を選ぶ必要があるから

イ メスは1回の子育てに対する労力がオスよりも大きいため、子孫を残したいという気持ち<sup>きもち</sup>がより大きくなるから

ウ メスはオスに比べて魅力<sup>みりょく</sup>がない個体が多いため、アピールする力が弱く選ばれる側にまわれないから

エ 卵を産み、乳を与えるなどの行為<sup>こうい</sup>はメスにしかできないため、子育ての権利はメスが握<sup>にぎ</sup>っているから

オ 子孫を残すという目的を達成するために、子どもが死なないようなオスを選ぶことはとても重要だから

5 ⑤A ⑤E には、「オス」か「メス」のどちらかが入ります。この中で「メス」が入るものをすべて選び、A～Eの記号で書きなさい。

6 ⑥ にあてはまることばとしてふさわしいものを文章中から三字で探し、書きぬきなさい。

7 ⑦ 《 》の段落で述べられていることの主旨はどのようなものですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア どんなツバメもパートナーを獲得<sup>かくとく</sup>するためには、手段を選ばないということ

イ 繁殖期のツバメは、平常時よりもかなり狂暴<sup>きようぼう</sup>になる傾向があるということ

ウ 調査地のツバメは、他の土地よりメスへのアピールが激しく、ケンカも頻発<sup>ひんぱつ</sup>するということ

エ ツバメのオスも、子孫を残すために必死にパートナーを得ようとしていること

オ ツバメのオスは、メスよりもパートナーを得るために苦勞をしているということ

(問題はこれで終わりです)

